

◇ 石川 信雄

○議長（清水満） 発言順位 1 番、議席番号 7 番、石川信雄議員を指名します。石川信雄議員。

〔7 番 石川信雄 登壇〕

○7 番（石川信雄） 7 番、石川信雄でございます。

それでは、質問通告書に従いまして質問したいと思います。

まず、改選後の初定例会ということで、初心に帰って新鮮な気持ちで臨みたいと思っております。また、町長におかれましては、再選おめでとうございます。

それでは早速ではありますが、質問に移らせていただきます。

まず、選挙結果について質問いたします。

この度の町長選挙は、最終的には無投票でありました。対立候補が出なかったこともありまして選挙に至らなかったわけですが、どのように結果を思っておられますでしょうか。また、選挙にならなかったこともあって選挙公報もなかったわけでありまして。定例会初日に町長のあいさつの中に、そのことにも触れられておりましたけれども、一般質問を想定されてあのようなあいさつ文になったのか、そこら辺も斟酌したいと思いますけれども、今回どのような公約で町長は立候補されたのか、まずそこから確認したいと思います。町長お願いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。

対立の候補者が出なかったという点につきましては、なぜそういうかたちになったのかは正直言って私にも分かりませんが、今、議員からお話のあった開会のあいさつで申し上げましたとおり、なるべく民主主義の世界では選挙になった方がベターだろうと思っております。

具体的な公約についてですが、やはり基本的な理念としては、住んでいる人がともかく夢と希望を持って、そして心豊かに暮らせるというような環境を作り、それを維持存続させていくのが私ども自治体としては大きな使命だと思っております。そこにプラス向こう 10 年では、日本一のりんごの町、日本一女性が住みたくなる町を 2 つのメインテーマとして、数々の事業

を実現させていきたいと思っております。

これから予算等々の中で、いろいろ細かくご提案を申し上げていきたいと思っておりますけれども、大きな柱としては次の6つを公約というようなかたちにはなりますが、いわゆるこういうことをやりたいというようなことで掲げました。

1つは何とんでも飯綱町はやはり農業を基幹、基礎として、いろいろな部門をやりたいわけですが、どうも近年、生産部門の強化育成が急務になってきたなと思っております。

また、おかげさまで極めて順調な財政運営をしてきたと思っておりますけれども、これからなお予想される厳しい財政運営に備えての強固な財政基盤を構築していきたい。

そして、夢の夢ではありますけれども、少子高齢化の中、何とか1万人の町というものを維持、堅持していくために賢明な策を採りたい。小澤副町長が来てから始めて、大いに進めました地方創生事業、大きくは5つの事業がございますけれども、この事業をきちんと計画どおり実施し、計画したとおりの目標数値を上げるよう全力を傾けたい。

また、三水第二小、牟礼西小の学校の跡地利用についても、住民の皆さんと一体になって、継続的かつ精力的に跡地活用を進めていきたい。

そして最後は、軽井沢が非常に長野県では有名な都市ではございますけれども、軽井沢にはない、もっと違った魅力のある町として、飯綱町はその右翼に立ちたい。一番トップに立ちたい。それには、りんごとかあまりにも豊かなこの自然、こういうものを生かして、この価値観を上げていくような行政を進めていきたい。それによって冒頭に申しあげましたような町づくりを進めていきたいと思っております。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） ただいまの町長の答弁に小学校の跡地活用を推し進めていきたいという話が出ました。

町長は以前に新聞発表にもなりましたが、赤東地区に50人子どもを増やすということをおっしゃられたことがございますけれども、首長の発言はやはり責任があると思います。実際50人増えたとは言いきれませんが、そのことについて、町長は今現在どのようにお考

えでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） あの記事の経過というものは、あまり宣伝がましく申し上げたつもりではなかったわけですが、信毎の記者からも、ああいうかたちで取り上げさせていただきましたということですが、私は、いよいよこれから赤東地区は東の玄関口として、いろいろな事業をスタートすることになります。この動きによってあの地域が、飯綱町の中でも非常に若い人たちにも魅力のある場所になっていくようにしたいと思っていますけれども、そういうふう感じていただけるような地域になるのではないかなと思います。

またもう1つは、みんな出ていってしまったのが出ていなくなる。またはUターン、帰ってくるという人たちがこれから出てくるのではないかなと思います。そういうことを目指していけば、50人というのはすごい数だと皆さん思われるかもしれませんが、よく人口の研究をされている皆さんが、地域がそのまま何とか維持していけるためには、地域の総人口の1パーセントの人が転入してくてくれるようなかたちだと、十分その地域は維持存続できるということですから、1パーセントぐらいの人たちの転入を何とか進めていくことによって、私はその目標に近づいていけるだろうと思って、これからも進めていきたいと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 先日、企画課で小学校の跡利用について地元説明会がありました。赤東区の役員さんに向けての説明会ではありましたが、いろいろご意見が出まして、老人福祉施設にした方がいいのではないかという意見も出ましたし、また赤東未来創造プロジェクトの中の意見集約したものが配布資料として役場から提出されたわけではありましたが、まだまだ地元住民の中にはどうなっていくのかという不安もありますし、あのような跡利用についてのプレゼン資料をいただきましたけれども、まだまだ具体的な中身が整っていないのではないかなと私自身も感じております。

それはなぜかと申しますと、収支の実際の裏付けがございませんし、経営ということを考え

ますと、まだ絵に描いた状態でありますので、その裏付けが整っていないということが非常に感じられました。

その中で、学校がなくなるということは、普通に考えれば地域は衰退していくということになるわけですが、今役場でも地方創生事業の中でそういった学校の跡地利用を進めておりますが、第二小に限らず西小も進めておりますけれども、町の中でその位置付け、赤東地区はこうしたい、西小地区はこうしたいという明確なものがありましたらお願いしたいと思えます。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） 石川議員さんのご質問でございますけれども、赤東地区、高岡地区の関係でございますが、赤東地区につきましては、今、仕事の創業、交流拠点整備事業という地方創生の事業で学校の跡地活用を進めようとしております。赤東地区につきましては、仕事という位置付けで第二小学校を拠点として活性化を図ってまいりたいということでございます。

もう一方の高岡地区、西小の関係でございますけれども、高岡地区につきましては、自然ですとか観光、こういったものをメインに西小学校を拠点に活性化を図ってまいりたいということとで進めているところでございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） それでは、町長の第2期に向けての姿勢は見えてきましたので次の質問に移ります。

議会議員選挙になるわけですが、こちら定数より1人多い16人での選挙戦でありました。かねてから指摘されておりました町村議会議員のなり手不足の感は否めません。特に20代から50代の立候補者が少ないことは、地方自治の観点からも問題と考えます。このことについて町長の見解をお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 議会の当選をされた人たちの年代構成等々については、あまり私の立場としては、申し上げる立場ではないと思っておりますけれども、ご質問ですからお答えを申し上げたいと思います。

各年代層からバランスよく議員さんが選出されてくるというのは、もしそういう現実があったとすれば、それはそれで好ましい状況であると思っておりますけれども、私はそれよりも大きな問題は、今日ここにいらっしゃる15人の議員各位が、今後どのように議員活動をされるか、どんな提案をしていただけるか、そして行政に対してどんな判断を示していかれるのかという方が非常に大事なことだと思っております。

例えば一定の年代層、特に若い人たちの年代層の議員さんがいないということが現実であったとすれば、それは大いに青年団と議会との意見交換会を開催するとか、模擬議会をやるとか、いくらでもそちらの皆さんの意見を吸い上げてくるチャンスはあるのではないかなと思います。是非そのようにお考えをいただいて、広く町民の意見を把握していただきたいと思っております。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 議会定数は現状維持ということで選挙になったわけですがけれども、そうは言いましても、依然として住民の皆さんからは、定数削った方がいいのではないかという意見もありました。そんな中で、議会でもいろいろ検討してまいってきてはおりますけれども、減らせばいいものではないということで、定数維持ということで議会では出した答えでありました。そうは言いましても、住民の皆さんからそういった意見も出るということは、それも1つの民意ということだと思います。

この4年の中で、議会としてもそのことについて内部で検討していこうとは思いますがけれども、議会では住民懇談会で女性のグループと懇談会の機会を持って意見を吸い上げる、また意見をお伺いするという事で予定もしております。

青年団につきましては、今団員数も少ないということもありまして、そこまでは至っておりませんが、議会は議会と考えてやっていくわけですが、町長選も立候補者がいな

い、議員選の方もプラス1の選挙戦であった。これはやはり、住民の皆さんから町政に対して、今ひとつ関心がないのではないかなと思っても致し方ないところであります。投票率はそんなに悪くはなかったわけですが、やはり積極的にそういった政治参加、実際に町政に携わっていかうという方々がないというのは、やはりこれは現実問題ですから、議会に限らず、町でもいろいろな機会に、社会教育でも結構ですし、勉強会とは言いませんけれども、いろいろやり方があるかとは思いますが。

町民講座を何回か開催しましたが、あれは非常に住民の皆さんからも高評価を得ているのではないかなと考えておまして、その中でそういった地方自治に関するテーマであったり、そういったことをしてきております。また来年度、予算取りされておるかとは思いますが、町としては来年度、どういうテーマで開催したいと申しましようか、町民講座を考えておられますでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 来年度予算はまだ全く編成をしていませんので、具体的にはありませんが、町民講座は非常に素晴らしい事業であるから、私は継続をしていくべきだと思っていますけれど、どの分野の講師先生を呼んでというのは議会とご相談を申し上げていくのが流れだと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） あのような町民講座で、そういった政治の問題を取り上げることは必ずしも悪いことではないと思っておまして、飯綱町議会は江藤先生ですとか、その道の専門家とも交友ありますけれども、江藤先生はそういったなり手不足に対しては全国的に発信しておりますし、飯綱町で以前懇談会をやったときにも、お見えいただいて住民と意見交換された経緯もございます。そういったことを積極的に議会としてもやっていければと思っておりますけれども、是非、町としてもその際にはご協力いただきたい次第であります。

それでは次の質問に移ります。平成30年度予算編成についてであります。

地方創生事業も中盤に入りますが、これまでの資本投入に対して成果が現れていますでしょうか。また、事業ごとに評価改善はなされていますでしょうか。

地方創生事業も来年度はいよいよもう中盤に差し掛かるということでもあります。種をまいてお金も入れてきたわけでありますけれども、中間報告で少しご答弁いただきたいと思っております。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答え申し上げます。地方創生事業、この件につきましては私も手元にございますけれども、昨年6月の定例議会の後の全員協議会において、今の状況についてのご報告をしてございます。その中にはどんな事業をやってきたか、そして具体的にどういう成果が挙がってきた等々についても記載をしているところがございますので、その辺はもう1度ご覧をいただくというようなことにしたいと思っておりますが、新人の議員さんもいらっしゃって、その当時の資料がまだお手元にないというような方につきましては、また担当の方からもお配りをしていきたいと思っておりますが、具体的な中身については担当の課長からご説明申し上げます。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） ただいまのご質問でございますけれども、地方創生事業につきましては、平成28年度までということになりますけれども、2億6,100万円ほど、地方創生の先行型、加速化、また推進というような交付金をいただきまして、事業費を投入してまいりました。

この成果といたしましては、人口で申し上げますと社会増減数がかなりのマイナスであったものが改善されてきておりますし、農業所得につきましても年々向上が図られてきたという状況でございます。

事業の主な取り組みでございますけれども、今まで子育て応援の充実ですとか、世界に誇る力強い産業形成ということで、ICT 農業の実践やカルヴァドスの開発、直売所の拡張、農家レストランの開設に向けての準備。また、公共交通機関の利用促進ということで、やぎ駅長の就

任やりんご列車の導入、貨客混載バスの検討。あと、仕事の創出、移住交流の推進ということで、100 ピーブルという冊子等の発行をさせていただくとともに、サマーキャンプや学習プログラムを準備しまして、住民の方、また町外の方にも体験をいただいたりしているところがございます。

それから、生涯活躍のまち推進事業につきましても、福井団地地区をモデルにパワリハの設置を行ってきておりますし、集落の活性化ということにつきましては、赤東、高岡地区でそれぞれ委員会を設置していただきまして、それぞれの活性化についてお話をいただいております。こういった取り組みが先ほど申し上げた成果に段々出てきていると感じているところでございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 私自身もいろいろ目を配って見てはおりますけれども、その中で企画課と子育て支援の関係ですが、外部から講師を招いてママフェスタ、あとフューチャースクールというものを開催しておられるわけですが、現在あのような講座をもって、実際に町民の参加は活況を呈していますでしょうか。

○議長（清水満） 馬島教育長。

〔教育長 馬島敦子 登壇〕

○教育長（馬島敦子） お答えいたします。i ママフェスタについて質問していただいております。ありがとうございます。

つい先日ですけれども、町民会館におきまして、子育て支援の一環としてi ママフェスタというものを行いました。入場者数ですけれども、1,000 人を超えました。同様なことを長野市でもやっています。長野市は30万都市ですけれども、5,500人ぐらい集まったと聞いています。飯綱町は1万人で、そこで1,000人ですから、大変ご参加いただいております。ありがとうございます。

また来年度以降への活動の励みになって、これからも益々活気付けていきたいと考えております。



○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） フューチャースクールの方をお願いします。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） それぞれの事業に対する細かい参加数は今手元にごさいませんが、住民の方、また若い方を中心にそれぞれご参加をいただいております。

この一連につきましては、第二小学校について、先ほど仕事を中心とした拠点として活用を図ってまいりたいというお話を申し上げましたけれども、若い方に起業ですとか、創業、こういったことに興味を持っていただき、町内の若い方でこれから仕事に就く方が起業、創業の参考としていただいて、是非、第二小学校の跡地活用にもご参加いただくようなかたちで、今後とも進めてまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 地方創生事業であるわけですが、アウトソーシング、外部委託の事業が多いわけでごさいまして、なかなか見えづらいところもあつたりするわけですが、やはり、そういった見えづらいこともありますけれども、予算計上して事業をやっているからには事細かに注目していかなければいけないかなと思っております。受託事業者がする事業であっても、やはり町の事業でございますので、そこら辺はきっちり町の方も管理、チェックは怠ってもらっては困るなと思えます。

中でも凸版の事業になりますけれども、イエローブック 100 ピープルですが、あと2号ぐらい発行すると思っておりますけれども、第2号が出た時点で、またいろいろ批判というか、要望というか住民からも出てきたことがありました。前回申し上げたことと変わらないこともあつたりするわけですが、また第3号、第4号を発行する際には、なるべく地域の方々の要望に沿うように整えていただければと思っておりますが、そうは申しまして編集者の方針もあるでしょうし、どういう編集方針の下に作っていくかとなると、やはり事業を受託した方の思いもあるわけですが、なるべく住民の皆さんの要望を聞きながら、ああいうものをまとめていく

となると、またちょっと百花繚乱的になって、テーマが分かりづらくなってしまいうこともあり得ると思いますが、行政としてもそういった声がいろいろ届いておれば、参考にさせていただきたいと思います。

次の質問にまいります。人口減少、少子高齢化の波の中では、ある程度の民生費の増大はやむを得ないところであります。また、福祉分野は住民要望も多い分野でありまして、削減することも困難な面もあります。町として抑制策をどのように考えていますでしょうか。

これは、民生費に限った問題ではないですが、かつて民主党政権のときには事業仕分けというところで、事業を精査して続けるものは続ける、廃止するものは廃止する、拡充するものは拡充ということもありましたけれども、特に民生費については、高齢化率 36 パーセントということもありますし、減ることはないというような分野であると思いますが、まず町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。今回は無投票ですけれども選挙をやってみますと、何をやっていただきたいというのは、民生費の関係でも、福祉、医療がダントツに要望が多いわけです。それを抑制していくというのは、先を見た新しいご提案だというふうに思いますが、私は、飯綱町に住んで良かった、この町に住んでいて心配がないというものの 1 つの大きなバックアップ体制というのは、民生費の関係する費用についてのいろいろな制度が充実し、それなりの予算が計上されているというのは、これは大事なことなので、他を何とか節約しても、民生費というのは維持をしていかなければならないだろうというのは、今持っている基本的な考え方です。

それにしても、膨大に上がっていく、私ども団塊の世代が 2025 年には一斉に後期高齢者の世界に突入していくという間違いない数字を見ますと、やはり早期発見等々により、とにかくお医者さんにかからない健康な体を維持していくための準備を一生懸命していかなければならない。そのために町は健康づくり宣言をさせていただいたり、いろいろしております。

例えば今年予算から、がんの検診料を大幅に支援することによって、検診料の個人負担を少なくいたしました、ワンコイン 500 円以下に。この間、補正予算でお願いをしてございますけれども、そのぐらいに検診をする人が増えたということは、がんを早期発見するためのチャンスを上昇していると思っています。それは結果として、医療費の節減にもなるというような方向に結ぶと思っております。

そういう予防医療等々、住民の皆さんに対しての健康PRを十分にすることによって、抑制を図っていく、支出を抑えていくというふうに考えています。あと担当からもご要望ですので申し上げたいと思います。

○議長（清水満） 高橋保健福祉課長。

〔保健福祉課長 高橋明彦 登壇〕

○保健福祉課長（高橋明彦） それではお答え申し上げます。特に民生費に限ったわけでないということでございますけれども、民生費におきましては、議員さんおっしゃったとおり、障害者等の総合支援事業に係る給付費が非常に高くなってきているということでございます。

しかし、障害福祉サービスにつきましては、障害者の方には絶対欠かせないものだというふうには認識しておるところでございます。ただ、現在福祉サービスの中で、障害児のサービスが非常に増加しているというところがございます。子どもの健やかな発育とか、発達の支援及び障害の早期発見のためには、特に乳幼児健診等の実施を含め、相談支援をしながら早期発見に努めていきたいということでございます。関係医療機関との連携によりまして、適切な療育ができる体制づくりの強化を図っていきたいと考えてございます。

また、衛生費の関係になりますけれども、先ほど町長申しましたとおり健康づくりの町いっぴな宣言を昨年実施しました。この取り組みにつきましては、健診を受ける、保健指導を行う、バランスのよい食事、運動等自ら健康づくりに取り組むというような4つの大きな方針で取り組んでおります。それによりまして、糖尿病、がん等々の生活習慣病の改善を早期発見することで、住民の皆様にもっと積極的に周知させていただきながら、住民の皆様の意識改革になればと考えております。以上です。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 町長も承知しておるわけですが、本当に住民要望が多い分野でありまして、これを抑制するというのは、そもそも相反する質問ではあったと思いますが、飯綱町の一般財源は70億余でありますけれども、要望を満たしていくことはやはり重要だと思います。町民益を考えるのが町も議員も第一だと考えておりまして、その中でこういった障害ですとか、福祉医療ですとか、そういったことにつきましては、手厚くしていただきたいというのが本音ではあります。担当課において、いろいろ整備されておりますけれども、今後益々引っ張っていただければと思います。

それでは次の質問に移ります。京急のりんごオーナー制度についてお伺いします。

京急のゴルフ場の農薬の問題もあつたりして、町とりんごのオーナー制度が契約されました。聞くと、その後の展開がどうも芳しくないということも聞いておりまして、そのことについて現状はどうなっているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。京浜急行電鉄は、長野京急カントリークラブが隣接する飯綱町へ何か地域貢献活動ができればということで、平成27年度からシナノスイートの木10本のりんごオーナーになっていただいております。

しかし、京浜急行電鉄は、今年度からりんごオーナー制度とは別の手法で応援したいという意向のため、現在この事業は中止をしております。ただし、これまで受け入れていただいた農家から、りんごの購入は続けていただいている状況でございます。

町は、京浜急行電鉄と本年度打合せを行っておりまして、これからも飯綱町の特産品であるりんごを応援していきたい、飯綱町に地域貢献をしたいという意志は確認をしているところでございます。

現在、町と京浜急行電鉄は、平成30年度、来年度の事業計画を含めて今後の方向性について協議をしているところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 今、課長の答弁で、今後については協議の最中ということをお伺いしました。繋がりが閉じられたわけではないということが確認できまして、少しほっとしております。できるだけ、そういった民間企業とパートナーシップを組んで、施策の展開をしていければ何よりだと思っております。

今、CSR、企業の社会的責任と言われますけれども、そういうことを考えますと消費者との橋渡しのことも十分に考えられます。企業とのパートナーシップを京急に限らず、町はどのように考えておりますでしょうか。まず町長にお伺いします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 企業との協賛と言いますか、そういうかたちについてすぐ思いつくのは、飯綱東高原で行っている森の里親制度。長野市の某自動車会社、某電気会社、某建物をやっている会社等々3社が今、里親というようなことで山づくりに協力をしていただいてやっております。そういうかたちというのは、企業の皆さんにしてみれば緑を増やし、そして私どもの方に見れば、里山をそういうかたちで整備をしていただくとともに、その関係者の皆さんが飯綱町においでをいただいて、いろいろなPRなり、消費に一役を担っていただくといった両者がウインウインのような提携というのは極めて大事だと思っております。

今後、積極的に進めていく分野だというふうに思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 今、企業では新人研修ですとか、リフレッシュ研修に農業体験もあつたりするわけですがけれども、そういった体験型の研修プログラムを町でも考えておられますでしょうか。これは担当課にお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 具体的に担当課であるようでしたら申し上げますが、私は先ほどの牟礼西

小、三水第二小の跡利用が、願わくばそういう人たちの研修の場であったり、または技術を集中的にレベルアップするための研修を受ける場であったりといった利用も非常にありがたいと思っております、議員のご提案のようなことについても積極的に取り組んでいきたいと思っております。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） 先ほど町長が答弁した内容とほとんど変わらないわけですが、学校の跡地利用とか、あともう1つは担当レベルで今考えているのは、農泊推進事業と言いまして、農村に都会の人たちに訪れていただいて、農村全体を楽しんでもらったり、研修をしていただいたり、そういったものが今、飯綱町にとって非常に可能性が高いのではないかと考えておまして、来年度については、農業関係者や観光関係者、あと行政もちろん含めてですけれども、そういった様々な皆さんで受け入れる協議会のようなものを作って、こちらで体験をしていただいて、そして今、議員からのご提案のように民間企業の研修にも使っていただいたり、そういった事業を町としても進めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） この質問はここまでで閉じたいと思います。

続いて次の質問に移ります。新庁舎建設の進捗状況についてお伺いしたいと思います。

町では設計プロポーザルをされましたけれども、その結果はどういう状況でありましたでしょうか。

○議長（清水満） 近藤副町長。

〔副町長 近藤邦彦 登壇〕

○副町長（近藤邦彦） それではお答えします。公募型のプロポーザルにて実施をいたしましたけれども、若干、公告の内容についてご説明させていただいて、結果について申し上げたいと思います。

公募にあたっては、業務内容については、町より求められる資料作成と必要に応じた検討会への出席、新庁舎建設方針を踏まえた基本設計書の作成、今後の発注、それは実施設計と工事の管理関係になりますけれども、それに関する仕様書作成への支援という3点を掲げました。

履行期限は、契約の日から平成30年5月31日までということでございます。

参加の要件といたしまして、町の建設工事等競争入札参加資格の規定のほかに、建築士法の規定によります1級建築士免許の登録者を5名以上有していること。それから、長野広域圏、北信広域圏、15市町村に本店を有する者であること。過去20年以内に長野県内で新築、または改築工事がしゅん工した1,500平米以上の公共施設の建築に関わる基本設計、実施設計の実績がある者であることを要件としまして、9月22日に公告いたしました。

このことによりまして、株式会社アーキプラン、株式会社エーシーエ設計、株式会社宮本忠長建築設計事務所の3者が応募されました。

審査会は10月12日木曜日9時から、9人の委員で審査をいたしました。

結果につきましては、120点満点で、株式会社アーキプランは85.1点、株式会社エーシーエ設計は87点、株式会社宮本忠長建築設計事務所は82.8点という非常にひっ迫した状況でございました。

この結果、第1候補として株式会社エーシーエ設計を決定いたしました。その後、第1候補の株式会社エーシーエ設計と協議をいたしまして基本設計会社として決定したところでございます。以上です。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 結果は今お伺いしたとおりだと分かりました。エーシーエ設計ということで、町内でも実績の多い設計事務所でありますけれども、私もホームページで応募要項を見ました。

建設方針の中に、かねてから保存した方が良いのではないかとっております木造旧庁舎が解体とうたわれておりましたけれども、このことについては、いつ誰が決定されたのか、お伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 近藤副町長。

〔副町長 近藤邦彦 登壇〕

○副町長（近藤邦彦） お答えいたします。公募型プロポーザルの建設方針は、案として示してございます。それから施設整備の要件では、これも予定要件としまして公告をしたところでございます。

既存庁舎の木造地上2階、床面積113平米と既存の福祉センター解体ということで、RC構造の地上3階、延べ床面積1,849平米の解体を表記いたしました。旧館につきましてもこの当時、調査、研究中でありましたので、建設方針案であって、予定要件であり決定はしてございません。以上です。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 決定はしていないという答弁がありまして、胸をなで下ろしておりますけれども、私としても旧庁舎に関しましては、記憶の場所と申しましょうか、飯綱町を今まで表現してきた建築でもあるわけで、規模もそんなに大きくありませんので、あれは残して、それこそ新庁舎と古い旧庁舎のコントラストによって、町並みも整えられていくことが望ましいと考えております。

次の質問になりますけれども、新庁舎は町並みのやはり中心となる建築であります。歴史ある牟礼宿であるわけですが、新庁舎のデザインを町はどのように考えておりますでしょうか。

○議長（清水満） 近藤副町長。

〔副町長 近藤邦彦 登壇〕

○副町長（近藤邦彦） 庁舎建設委員会では、2回の視察を含めると、10回の委員会を開催いたしました。以前もご説明を申し上げましたけれども、建設委員会では所掌事務といたしまして、1つとして庁舎を建設する位置に関する事、2つ目に庁舎の機能及び規模に関する事としてお願いしたところでございます。

視察にあたりましても、住民に開かれた機能を備えた庁舎、それから建設方針に至った経過



等の視察をしてきたところでございます。

その中で委員さんの要望として、デザインのことは委員会では検討してきませんでしたけれども、高い防災機能を備えた災害に強い庁舎、町民ファーストのワンストップでプライバシーが守られる庁舎、お客様に威圧感のない配慮された庁舎、日の当たる明るく優しいバリアフリーな庁舎、コミュニティスペースが設置された庁舎、内装に木材を多く取り入れたぬくもりのある庁舎、簡素で機能的な庁舎等々挙げられました。

このことを踏まえまして、職員の動線も考慮しました各課のヒアリングを行いました。それを基に第1段階では要望の確認、条件整備、第2段階で各階のゾーニングの確定、第3段階で各部屋の仕様の確定をこれから進めまして、来年30年1月中に基本計画をまとめるようになっていきます。新庁舎のデザインを町はどのように考えているかというご質問につきましては、機能面を重視して検討してまいりましたので、デザイン面では特別、こんなデザインにという考えは、今の時点ではございませんけれども、基本計画をまとめる段階で意見を聴取していきたいと考えています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） 庁舎の建設ですから機能を優先されることは間違いないわけですが、デザインというのは、ブランドづくりの中の一環でもあるわけですが、いわゆる製品に限ってもデザインの善し悪しで売れたり、売れなかったりするわけでありまして。

デザインになぜこだわるかというのは、やはり牟礼宿、今まで北国街道の歴史もありまして、民間レベルでは牟礼宿の面影をとどめている建物自体は、非常に少なくなっているわけでありまして、役場庁舎はそういった意味で景観づくり、まちづくりの部分ではリードしていかなければいけないと私は常々思っております、モデルになるような建築を示していくべきではないかと思っております。その中で、デザインということに今回絞ってお伺いしているわけですが、時間の都合もありますので、町長最後にご答弁お願いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 庁舎につきましては、以前も牟礼宿というようなものを少し考えたらどうだご提案をいただいた記憶がございますけれども、飯綱町の役場ですし、牟礼宿のイメージアップもどうかななんて思うところもございますけれども、全体の町のバランスの中で落ち着いたデザインの庁舎であって欲しいと思っているのと、ともかく今回はいわゆる箱物にあまり金をかけたくないというのが、今回の一番の底に流れているところがございますので、非常に安い価格で抑えようとしておりますので、デザインをいろいろやっていると、プラス2億、3億というような話になってくるのも若干心配はしております。そこら辺、歴史の関係の皆さんの委員会もございますし、まだまだ庁舎の建設委員会もございますので、その皆さんたちのいろいろご意見いただく中で、最終的にこんな案でどうだというようなものを決めたときは、もちろん議会にもお示しをしていきたいと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） それでは予定していた質問は全て終了であります。特に最後の質問の庁舎についてでありますけれども、なるべく住民の意見も反映されるようなかたちで、これから建設、検討を進めていただければと思っています。以上を持ちまして終わりいたします。

○議長（清水満） 石川信雄議員、ご苦労様でした。

それでは暫時休憩に入ります。再開は10時10分いたします。